

雨乞岳（二〇三七メートル）

紅葉と富士山の展望

世K 佳彦

K原塚さんから雨乞岳へのお誘いがありました。この山

は甲斐駒ヶ岳の真北にある標高二〇三七メートルの山です。新ハイキング社の「静かなる尾根歩き」というガイドブックに紹介があり、マークを付けていた山です。しかしアプローチの便が悪く車を使わないと行けません。また標高差約九〇〇メートルはなんとかクリアできるとして歩行距離が長く、ガイドブックの評価は「上級向き」となっていて、私自身が旗振りをしていける山ではなさそうだと塩漬けになっていた山です。そんな山だったので、「渡りに船」とばかりに、

K原塚さんのお誘いに乗せてもらいました。

一〇月一八日（日）、天気予報は快晴。朝六時に北上尾に集合、圏央道を経由して中央道小淵沢ICで降り、国道二〇号を東南に約三km進んだところに信号がありその手前右側に細い道があり「ヴィレッツジ白州入口」という縦書きの標識のところを入っていく。車一台がやっと通れるような道で不安がよぎるが、結構対向車もあります。トンネルをくぐってなお進むととやがて平久保池が現れます。ここがキャンプ場です。その先、左に登山口があります。

今でも雨乞いの信仰が続いているのでしょうか、登山道

はよく整備されています。ただ角材でステップが切つてあるので歩幅が合わなくて歩きづらい。周りはカラマツ林でまだ紅葉に間があります。水平距離にしておよそ三kmのところを約九〇〇メートル登るのでそこから勾配は比較的緩やかです。地形も特段の特徴的なところもなく、後から風景を描写しようとする戸惑ってしまいます。それでも標高一六〇〇メートルを超すあたりでしょうが、広葉樹が多くなり段々色が鮮やかになってきます。そして樹木の切れたところでは富士山が姿を現します。先週、大菩薩峠の稜線から見た富士山は初冠雪であり、空気が澄んでいたのにくっきり見えましたが、今日は雪も少

し消えて水蒸気が上がっているせいでしょうか、ちよつとも足りません。

南西方向に向かって歩いてきました。標高一七〇〇メートルで西方向に変わり傾斜が少しくつくなつてきます。この辺から広葉樹の割合も多くなり笹の原になって来て、やがて頂上に着きました。途中いくつかのパーティーとすれ違いましたが、すでにみんな下って行き私達のパーティーが頂上を占拠します。静かな山です。

東南方向の樹木が切れて富士山が展望できます。その下、手前には風化した花崗岩が白く光る日向山があります。南方向は樹木越しに甲斐駒が見えますが、あのどっしとした威容がズバリ望めないのが残念です。

食事中にも風が吹くとカラ

マツの黄色の葉がさらさらと落ちてきて、秋の山だなあと思いました。

山岳写真家の白旗史朗氏の調査によると「雨乞い」のつく山は全国に三一あるそうです。そんなことが頭の中に残っているとき「今度はどこに登ろうか」などとガイドブックや地図を見ているうちに、「奥武蔵」中に雨乞山が二つもありました。この二つが白旗氏の数える三一のなかに入っているかどうか、今度足を向けてみようかと思っています。

雨乞岳メンバー K原塚(L)、
S々木M、福D利、美、渡B、
世K佳